

TOGARIISHI SITE

特別史跡

尖石遺跡

—— 平成6年度記念物保存修理事業(環境整備)に係る試掘調査報告書 ——

1995年3月

茅野市教育委員会

TOGARIISHI SITE

特別史跡

尖石遺跡

—— 平成6年度記念物保存修理事業(環境整備)に係る試掘調査報告書 ——

1995年3月

茅野市教育委員会

はじめに

茅野市には300以上もの遺跡が発見されていますが、その多くが縄文時代の中でも中期と呼ばれる時期のもので、それらの遺跡の多くは八ヶ岳山麓の中でも標高1,000m前後に位置しており、その代表的な遺跡が国の特別史跡に指定されている豊平地区の尖石遺跡です。

永年、地権者の皆さんや地元の方々の理解と熱意によって、保存されてきましたが、近年の開発はついに尖石遺跡の周辺にも及んできました。そこで茅野市は、このすばらしい郷土の文化遺産を保存し、後世に受け継ぐべく昭和62年度から国・県のご援助をいただき、尖石遺跡の公有地化を行い、平成2年度からは引続き記念物保存修理事業（環境整備）に着手しました。

保存修理事業の一環として行われている試掘調査は、尖石遺跡の整備計画を作成していく上での基礎的な調査として実施されているものであります。今年度はその試掘調査も5年目を迎えました。調査では発見された住居の数2軒と、昨年には及ばなかったものの、数多くの小さな穴が発見されています。尖石遺跡の全体像を把握するには、さらに数年の年月を要する作業となりますが、成果は少しずつ、けれども着実に上げられています。

また、この試掘調査と並行して行われている基本計画の作成や追加指定地の用地買収事業も着々と進んでおります。今後も史跡整備に一層の努力をして参る所存でありますので、皆様の一層のご協力をお願い致します。

最後に、事業の実施にあたってご指導いただいた文化庁、整備委員会、長野県教育委員会をはじめ、調査に参加された関係者の皆様に対し、深甚なる感謝を申し上げます。

平成7年3月

茅野市教育委員会
教育長 両角 昭二

例言・凡例

1. 本書は、特別史跡尖石石器時代遺跡記念物保存修理事業（環境整備）に係る試掘調査報告書である。
2. 試掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、茅野市教育委員会が実施した。
3. 試掘調査は、平成6年9月1日から12月13日まで行った。
整理作業は、平成6年12月1日から平成7年3月24日まで行った。
4. 出土品の整理及び報告書の作成は、文化財調査室で実施した。
本報告書に係る出土品・諸記録は、尖石考古館に保管している。
5. 本報告書の執筆は、小林深志が行った。
6. 本文中、特別史跡尖石石器時代遺跡の名称を特別史跡尖石遺跡あるいは尖石遺跡と通称を用いている。
また、挿図の平面図において、方位の入っていないものは上が北である。
7. 調査の体制

本調査は茅野市教育委員会文化財調査室が実施した。組織は以下の通りである。

特別史跡尖石石器時代遺跡整備委員会

特別委員 田中哲雄（文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官）
坪井清足（大阪文化財センター理事長）

専門委員 戸沢充則（明治大学教授）
亀山 章（東京農工大学教授）
土田勝義（信州大学教授）
清水 擴（東京工芸大学教授）
小平 学（学識経験者）
宮坂光昭（長野県遺跡調査指導委員）
木船智二（長野県教育委員会事務局文化課課長）

調査主体者 両角昭二（教育長）

事務局 宮下安雄（教育次長）

文化財調査室 両角英行（室長） 鵜飼幸雄（係長） 守矢昌文 小林深志（兼） 大谷勝己
小池岳史 功刀 司 百瀬一郎 小林健治 柳川英司 大月三千代

尖石考古館 小平 恭（館長） 小林深志 今井由香 宮坂朝子 小平美智子 鈴木花織

調査担当者 小林深志（尖石考古館学芸員）

調査補助員 赤堀彰子 武居八千代 堀内 潭

発掘調査・整理作業協力者

牛山市弥 岡 和宣 小平ツギ 小平フサ子 小平ヤエコ 関 秀樹
武田けさ子 立岩貴江子 長田 真 花岡照友 宮坂ちよ江

目 次

はじめに

例言・凡例

目 次

第 I 章	調査の方法と経過	1
第 1 節	調査の方法	1
第 2 節	調査の経過	1
第 II 章	遺跡の層序	2
第 1 節	基本層序	2
第 2 節	今年度調査区における層序	2
第 III 章	遺構と遺物	7
第 1 節	遺 構	7
第 2 節	遺 物	26
第 IV 章	ま と め	30
第 1 節	調査の成果	30
第 2 節	今後の課題	30

第 I 章 調査の方法と経過

第 1 節 調査の方法

特別史跡尖石遺跡は、指定地の用地買上げが終わった翌年の平成 2 年度から、記念物保存修理事業（環境整備）のため継続して試掘調査が行われ、今年度で 5 年目を迎えることとなった。過去 4 年間の調査については、それぞれ試掘調査報告書が刊行されている。

平成 2 年度に試掘調査を開始するにあたって、尖石遺跡全体を大きく 4 つに分け、北西隅を I 区とし、時計回りに II 区 III 区 IV 区と区画の名称をつけている。その各区画ごとに遺跡範囲の全体を覆うように東西南北にあわせて大きく 10 m 四方の大きな正方形のグリッドで区切り（大グリッド）、x 軸を大文字のアルファベット、y 軸を数字で呼称している。さらにその大グリッドを 2 m 四方の小さなグリッド（小グリッド）として x 軸を小文字のアルファベット、y 軸を数字で表し、A 1 a 1 のように小グリッドの 1 つ 1 つに名前をつける作業を行ってある。

今回調査の対象としたのは、遺跡の中央を東西に走る市道甲 1 号線の北側で、平成 3 年度、5 年度に調査を行った地区の南側にある雑司久保堰との間である。市教育委員会で設置した調査区 I 区と II 区の南側にあたる。掘り下げにあたっては、例年通り住居址の検出が行えるよう、2 m の小グリッドを 1 つおきに掘り下げて行く方法を取ることにした。また、遺跡全体の地形を見るために、計画的に東西方向及び南北方向に一列に掘り下げて行くこととし、必要に応じて新しく調査区を設けることにした。

第 2 節 調査の経過

調査を行うのに先立って、設置してある基準点をもとに調査区を設定するための杭打ちを委託して行ったが、今年度調査する地区の西側が植林によるカラマツ林、東側がクリやナラなどの雑木林となっており、計画した調査区を掘り下げるのは難しかった。そこで、できるだけ立木のあるところは避け、草地となるところを掘り下げることにしたため、ある箇所については幾つかの調査区を連続して掘り下げ、またある箇所についてはかなりの範囲で調査のできない箇所が生じることとなった。

調査は 9 月 1 日から開始した。調査区の掘り下げは東側である II 区 G 11 e 2・4、G 10 b・c 5 グリッドから西へ向かって行っていった。また、翌日からは検出した遺構の、確認面での写真撮影と平面図作成作業を開始した。

各グリッドの掘り下げと検出遺構の写真撮影、平面図の作成は 10 月 12 日まででほぼ終了し、グリッド壁面の清掃と土層断面図の作成に入る。土層断面図の作成は、掘り下げを終了した西側のグリッドから行う。

各グリッドの壁面清掃と土層断面図の作成は、10 月 20 日まででほぼ終了し、10 月 24 日からは土層観察に入る。各グリッドの土層観察は 10 月 27 日までに終了し、10 月 31 日からは、検出遺構の確認面での土層観察を行った。この作業は 11 月 2 日まで行う。

また、11 月 12 日の尖石整備委員会の開催に先立ち、11 月 10 日と 11 日の 2 日間をかけて、全体の清掃作業を行った。

埋め戻し作業は、他遺跡の調査の関係で 12 月 5 日から 13 日まで行い、機材を搬出して現地での調査のすべてを終了する。

第II章 遺跡の層序

第1節 基本層序

一昨年調査において、尖石遺跡の基本層序の検討が為されているので、それにそって簡単に記す。

第1 a 層 暗褐色土(10YR3/3)

地表面下10cmほどまでは粒子は粗く、徐々に粒子が細くなる。締りは全体になく、粘性もない。1mm以下のローム粒子を稀に含み、ロームブロックの混入はない。3mm程度の炭化物・礫を稀に含む。

第1 b 層 褐色土(10YR4/4)

締り、粘性ともにあまりない。粒子は細かく、ローム粒子を多量に含む。

第2層 黒褐色土(10YR2/2)

粒子は細かく、締っているが、粘性はあまりない。1mm以下のローム粒子を稀に含む。

第3層 黒褐色土(10YR2/3)

粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子を稀に含むが、ロームブロック・炭化物・礫は見られない。

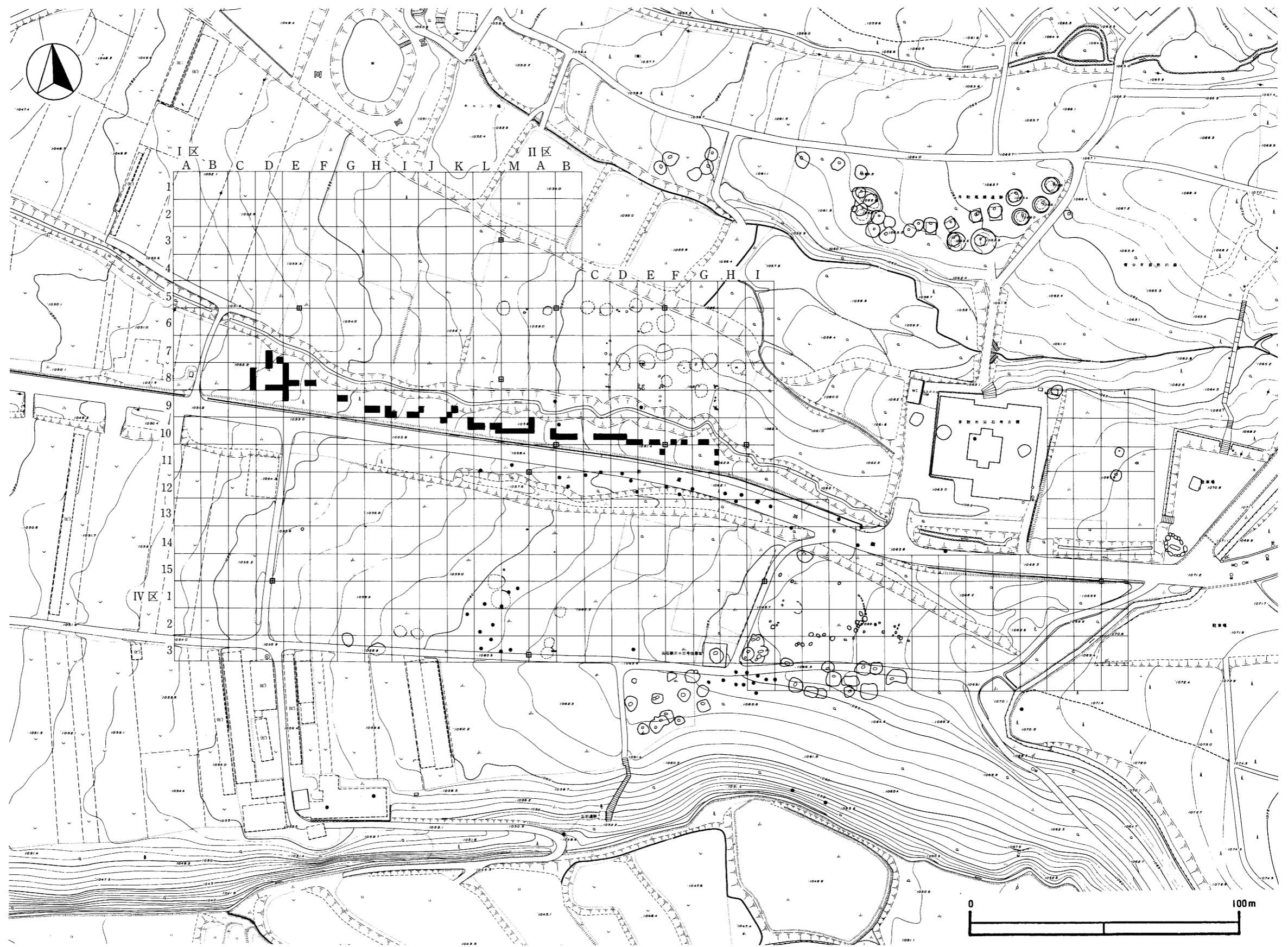
第4層 暗褐色土(10YR3/4)

粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子を多量に含み、3mmほどのロームブロックも少量含む。稀に3mm大の炭化物粒子を含むが、礫の混入はない。

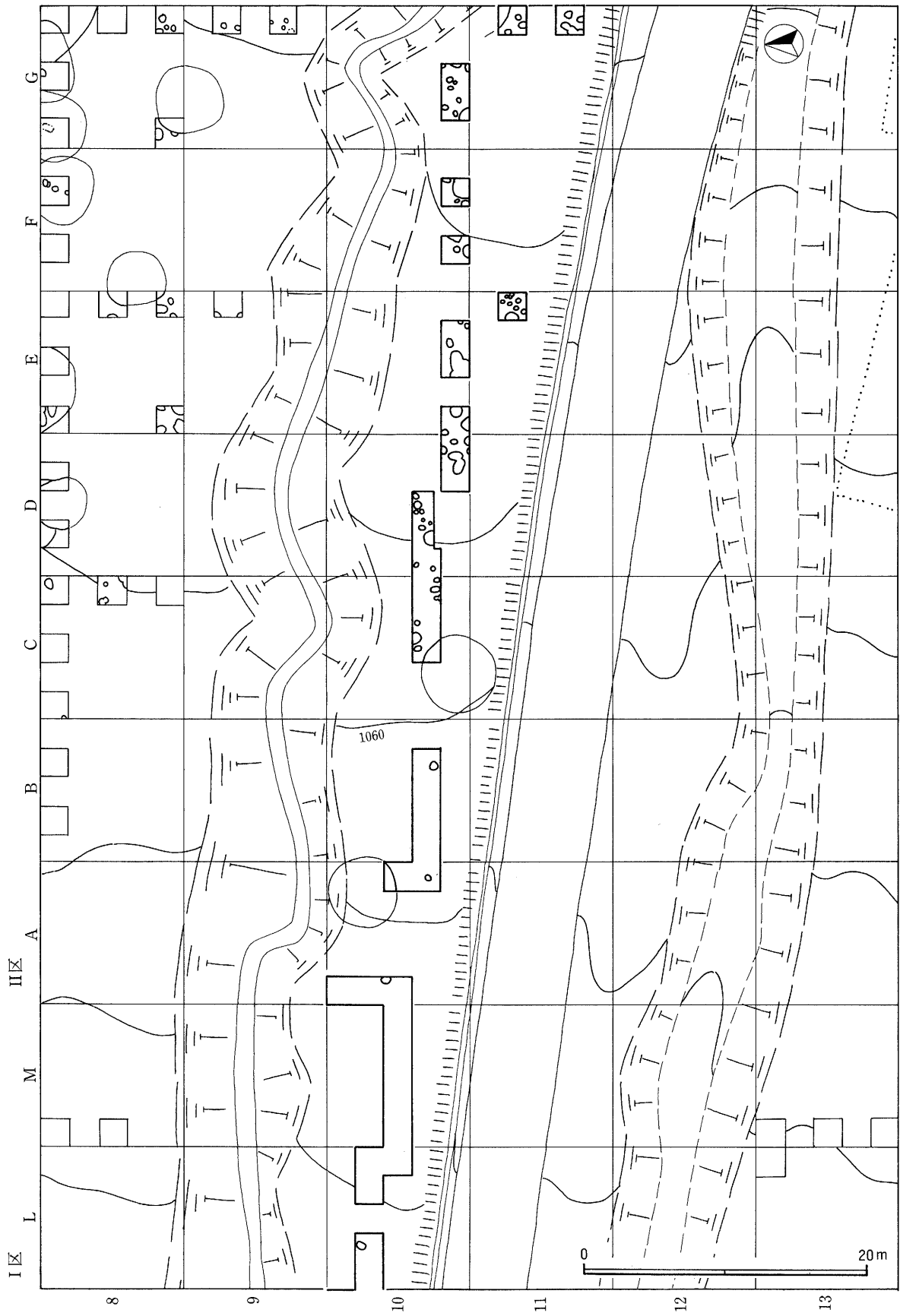
第2節 今年度調査区における層序

前年度までの調査が、つい最近まで畑として利用されていたのに対し、今年度調査箇所がかつては畑として利用されていたものが、その後林となったことで、堆積している土層は、かなり今までと違った様相を呈していた。すなわち、耕作土層として捉えられる1 a 層が認められず、最も上層が2 b 層であること、2・3層が検出されないこと等である。また、1層の下層に暗褐色の土層が堆積していたが、これは市道甲1号線の建設の際に削平した土を盛ったものと考えられる。また、部分的に少礫を含む層として観察された溝が数本検出されている。いずれも南東から北西方向に延びるもので、北側の雑司久保堰へ流れ込むものであったと考えられる。

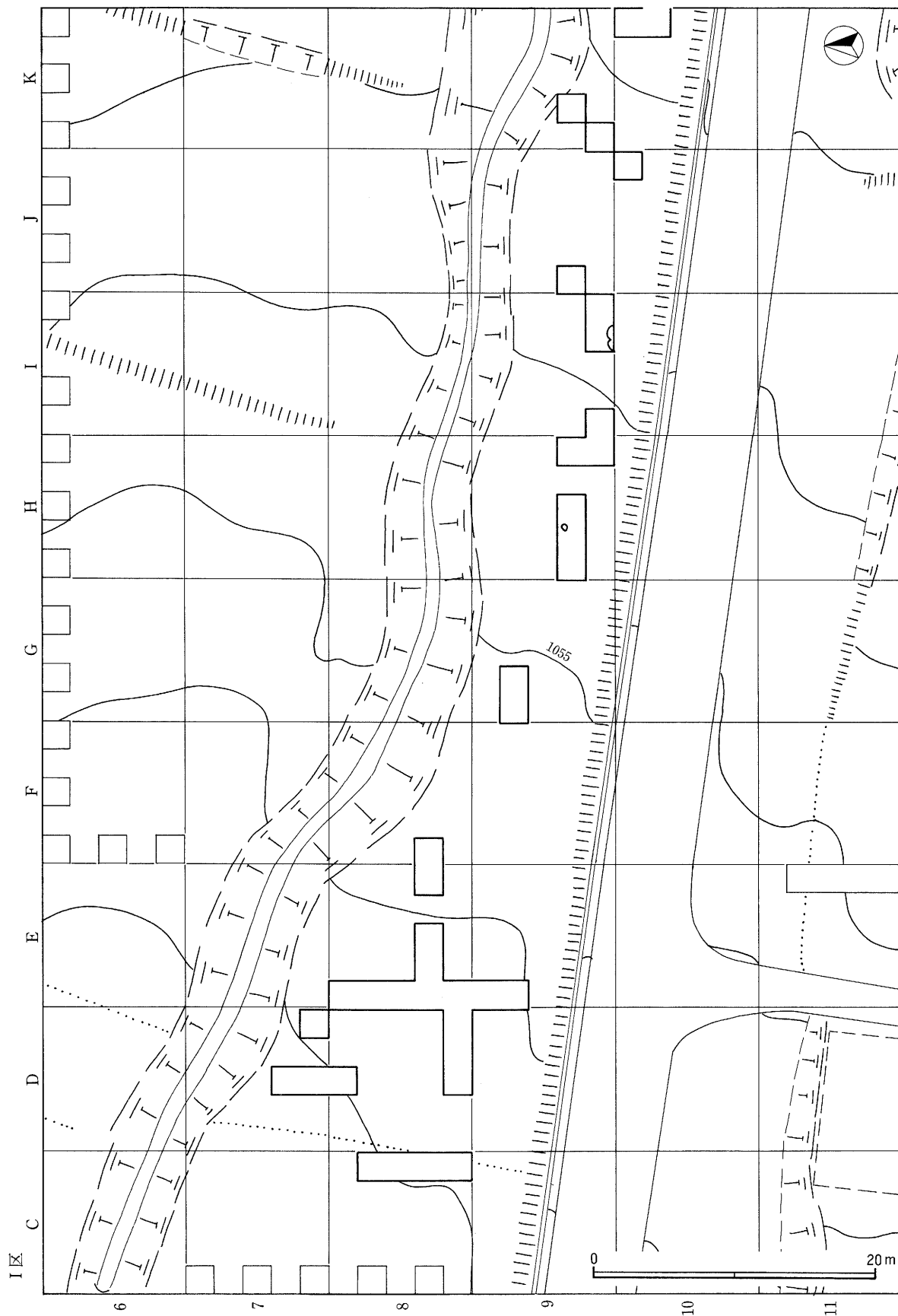
4層及びその下層のロームの堆積は今までの調査と変わりなく認められる。



第1図 周辺の地形と発掘区 (1/1,500)



第2図 発掘区と遺構の分布(1) (1/400)



第3図 発掘と遺構の分布(2) (1/400)

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 遺 構

今年度調査区で検出した遺構は76基である。その内、住居址になると考えられるものが2基あり、その他は土坑やピットになる。住居址になると考えられる遺構も含め、検出範囲が狭く、ほとんどが未掘部分にかかっており、平面形態を明らかにできるものが少ないため、一括して遺構として通し番号を付した。

遺構1（第4図、図版2-2）

Ⅱ区G11e 2で検出された。長径43cm、短径35cmの楕円形を呈する。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、5mm以下の炭化物を少量含む。

遺構2（第4図、図版2-2）

Ⅱ区G11e 2で検出された。平面形は楕円形で、短径は47cmを測る。長径ははっきりしないものの、推定55cmほどになるうか。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子と炭化物を少量含む。

遺構3（第4図、図版2-2）

Ⅱ区G11e 2で検出された。平面形は径40～43cmのほぼ円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子や炭化物・焼土を少量含む。

遺構4（第4図、図版2-1）

Ⅱ区G11e 4で検出された。平面形は長径60cm、短径52cmの楕円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。壁際よりも中央の方が黒味が強く、ローム粒子の混じりも少ないが、分層できなかった。

遺構5（第4図、図版2-1）

Ⅱ区G11e 4で検出された。南半が未掘グリッドにかかっており、長径は不明であるが、短径50cmほどの楕円形になるものと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子と炭化物を少量含む。

遺構6（第4図、図版2-1）

Ⅱ区G11e 4で検出された。長径は不明であるが、短径40cmほどの楕円形になるものと考えられる。遺構7と重複しているが、平面での観察では新旧関係は明らかにできなかった。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構7（第4図、図版2-1）

Ⅱ区G11e 4の西側で検出された。未掘のグリッドにかかっており、規模ははっきりしないが、径70cmほどの円形になるのではないかと考えられる。遺構6・8と重複しているが、平面での観察では、新旧関係を明らかにすることはできなかった。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子と炭化物を少量含む。また、にごったロームが斑状に入る。

遺構8 (第4図、図版2-1)

II区G11e4の南西隅で検出された。未掘のグリッドにかかっており、平面形は明らかでない。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構9 (第4図、図版2-3)

II区G10c5の北西隅で検出された。大半が未掘グリッドにかかっているため、平面形や規模は不明である。確認面である上部で、径10cmほどの礫が2点出土している。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構10 (第4図、図版2-3)

II区G10c5の東側で検出された。大半が未掘部分にかかっており、形態や規模は不明な点が多いが、一辺が70cm前後の方形ないしは長方形になるものと考えられる。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。壁面の観察では、暗褐色土の上面から掘り込まれている。

遺構11 (第4図、図版2-3)

II区G10c5の南東隅で検出された。大半が未掘部分にかかっており、形態や規模は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。30mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構12 (第4図、図版2-3)

II区G10c5の中央よりやや北側で検出された。径43~46cmの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構13 (第4図、図版2-3)

II区G10c5の中央で検出された。径20cmほどの不整形円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。中央が径5cmほど黒味を帯びており、ロームブロックやローム粒子の混入も少ないことから、柱痕となる可能性もある。

遺構14 (第4図、図版2-3)

II区G10c5の北西寄りで検出された。長径32cm、短径17cmの楕円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。中央が径5cmほど黒味を帯びており、ロームブロックやローム粒子の混入も少ないことから、柱痕となる可能性もある。

遺構15 (第4図、図版2-3)

II区G10b5の南東寄りで検出された。径30cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含むが、東と西に径5cmほど円形にロームブロックやローム粒子が少なく、黒味を帯びている箇所がある。

遺構16 (第4図、図版2-3)

II区G10b5の北壁際で検出された。一部未掘部分にかかっているが、短径が37cmで、推定長径が47cmほどになる楕円形を呈するものと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含む。壁面の観察では、暗褐色土の上面か

ら掘り込まれている。

遺構17 (第4図、図版2-3)

II区G10b5の西側で検出された。径が30~33cmほどのほぼ円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構18 (第4図、図版2-3)

II区G10b5の南西隅で検出された。大半が未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。中央に大きなロームブロックがあることから、複数の遺構の重複と考えることもできる。

遺構19 (第4図、図版2-4)

II区F10d5の北東隅で検出された。大半が未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含む。壁面の観察では、暗褐色土上面から掘り込まれている。

遺構20 (第4図、図版2-4)

II区F10d5の中央から南西隅で検出された。大半が未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明であるが、南壁へ向かうプランからは、住居址などの大きな遺構にはならず、150cmほどの土坑になるのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10cm以上のロームブロック、1mm以下のローム粒子を多量に含む。暗褐色土上面から掘り込まれているが、上層にもかなり大きなロームブロックが混じっている。倒木痕のようなものになる可能性もある。

遺構21 (第4図、図版2-4)

II区F10d5の南西側で検出された。長径30cm、短径20cmの楕円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構22 (第4図、図版2-4)

II区F10d5の南西隅で検出された。大半が未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明である。検出面で径20cmほどの礫が出土している。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構23 (第4図、図版2-5)

II区F10b5の東側で検出された。大半が未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明であるが、方形ないしは長方形を呈するのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下の炭化物を少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構24 (第4図、図版2-5)

II区F10b5の北東側で検出された。径27cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5~10mmのロームブロック、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構25 (第4図、図版2-5)

II区F10b5のほぼ中央で検出された。長径45cm、短径37cmの楕円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子

は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、3 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構26 (第4図、図版2-5)

II区F10b5の南壁際で検出された。未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明である。長径あるいは短径が90cmほどの楕円形ないしは円形を呈するのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5~10mmのロームブロック、1 mm以下のローム粒子、3 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構27 (第4図、図版2-6)

II区E11e2の北東側で検出された。径25cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子を少量含む。

遺構28 (第4図、図版2-6)

II区E11e2の東側で検出された。径30~35cmほどの円形を呈する。遺構29と重複するが、新旧関係は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5~10mmのロームブロック、1 mm以下のローム粒子、2 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構29 (第4図、図版2-6)

II区E11e2の東側で検出された。径25cmほどの円形を呈する。遺構28と重複するが、新旧関係は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mmほどのロームブロック、1 mm以下のローム粒子、2 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構30 (第4図、図版2-6)

II区E11e2の北東側で検出された。径28cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、2 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構31 (第4図、図版2-6)

II区E11e2のほぼ中央で検出された。径20~25cmの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、2 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構32 (第4図、図版2-6)

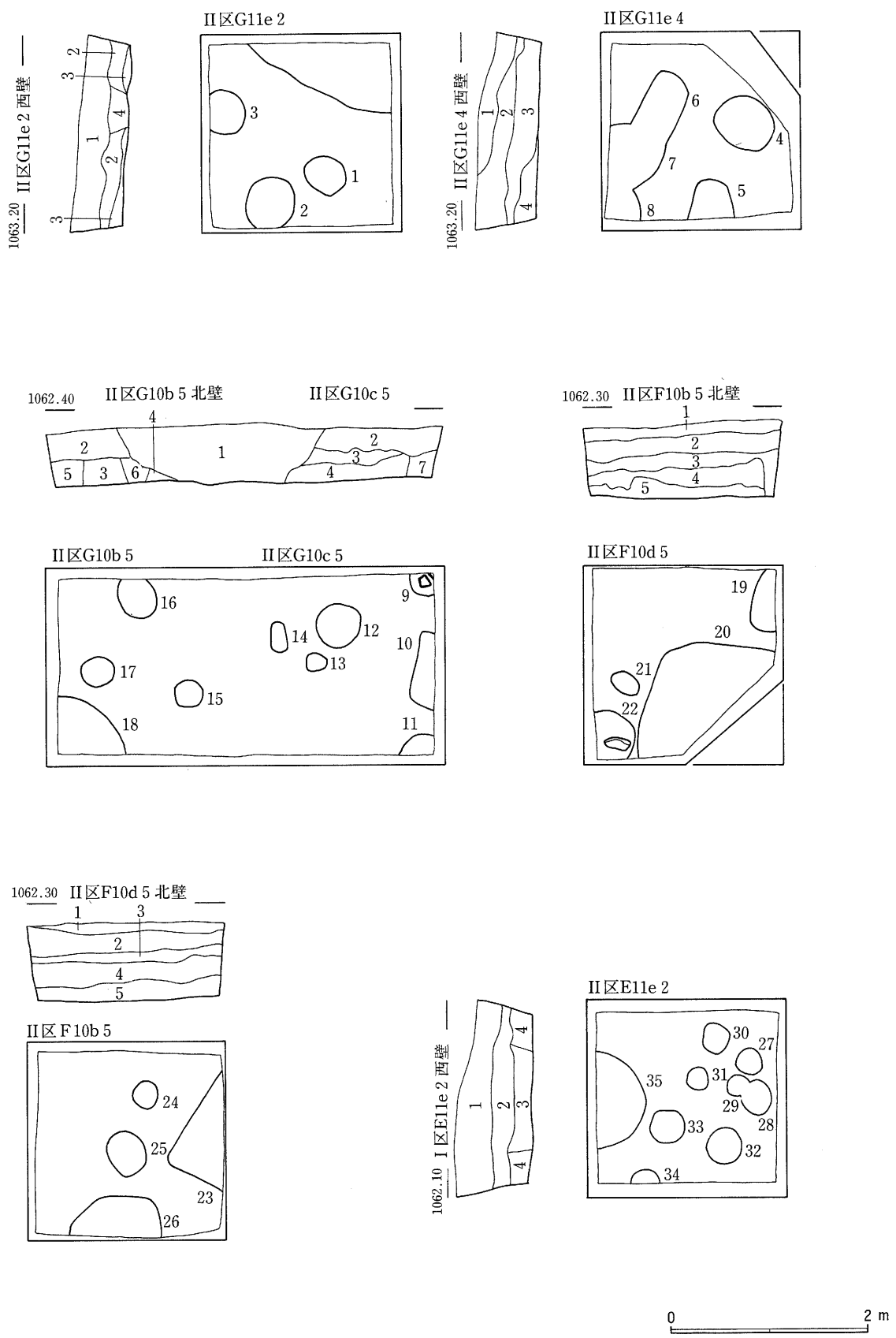
II区E11e2の南東側で検出された。径35cmの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、3 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構33 (第4図、図版2-6)

II区E11e2のほぼ中央で検出された。径35cmの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロックを少量含むほか、1 mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構34 (第4図、図版2-6)

II区E11e2の南壁際で検出された。未掘部分にかかっているため、平面形や規模は明らかでないが、径30cmほどの円形になるのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、3 mm以下の炭化物を少量含む。



第4図 検出された遺構と土層堆積状態(1) (1/60)

遺構35 (第4図、図版2-6)

II区E11e2の西壁際で検出された。未掘部分にかかっているため、平面形や規模は明らかでないが、径100cmほどの円形ないしは楕円形を呈するのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構36 (第5図、図版3-1)

II区E10d5の西壁際で検出された。一部未掘部分があるが、径30~35cmほどの円形になるのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構37 (第5図、図版3-1)

II区E10d5の西壁際で検出された。一部未掘部分があるが、径30cmほどの円形になるのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構38 (第5図、図版3-1)

II区E10d5の北西側で検出された。長径60cm、短径47cmほどの楕円形になるものと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構39 (第5図、図版3-1)

II区E10c5のほぼ中央で検出された。遺構40・41と重複しており、平面形や規模は明確ではないが、長径140cmほど、短径95cmほどの楕円形になるのではないかと考えられる。重複した遺構との新旧関係は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構40 (第5図、図版3-1)

II区E10c5の南西隅で検出された。未掘部分にかかっている他、遺構39・41と重複しているため、平面形や規模は不明である。また、重複した遺構との新旧関係も不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含む。

遺構41 (第5図、図版3-1)

II区E10c5の西壁際で検出された。未掘部分にかかっている他、遺構39・40と重複しているため、平面形や規模は不明である。また、重複している遺構との新旧関係も不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、1mm以下の炭化物を少量含む。

遺構42 (第5図、図版3-2)

II区E10a5の東壁際で検出された。未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明であるが、径90cmほどの円形ないしは楕円形になるものと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構43 (第5図、図版3-2)

II区E10a5の南壁際で検出された。未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明であるが、方形ないしは長方形を呈するのではないかと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、

粘性はない。3 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、5 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構44（第5図、図版3-2）

II区E10 a 5の北西隅で検出された。一部未掘部分にかかっているため、平面形や規模は明らかでないが、短径が40cmほどの楕円形になると考えられる。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、5 mm以下の炭化物を少量含むほか、1 mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構45（第5図、図版3-2）

II区E10 a 5の西側で検出された。長径50cm、短径40cmの楕円形を呈する。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、2 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構46（第5図、図版3-2）

II区E10 a 5の南壁際で検出された。大部分が未掘部分にかかっており、平面形や規模は明らかでない。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロックを少量含むほか、1 mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構47（第5図、図版3-2）

II区E10 a 5の北壁際で検出された。大部分が未掘部分にかかっており、平面形や規模は明らかでない。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構48（第5図、図版3-2）

II区E10 a 5の南壁際で検出された。大部分が未掘部分にかかっており、平面形や規模は明らかでない。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。10mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子を少量含む。

遺構49（第5図、図版3-2）

II区E10 a 5の西側で検出された。長径97cm、短径57cmの楕円形を呈する。一部遺構50と重複しているが、新旧関係は不明である。検出面で細長い礫が出土している。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、2 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構50（第5図、図版3-2）

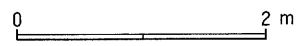
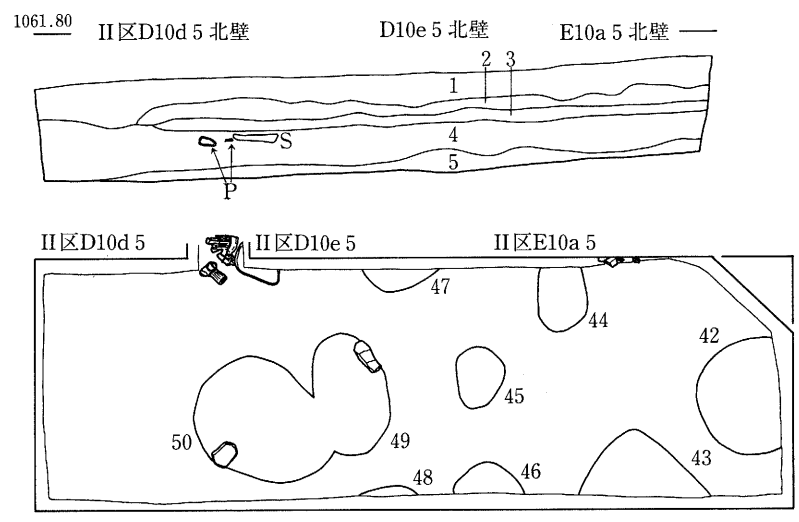
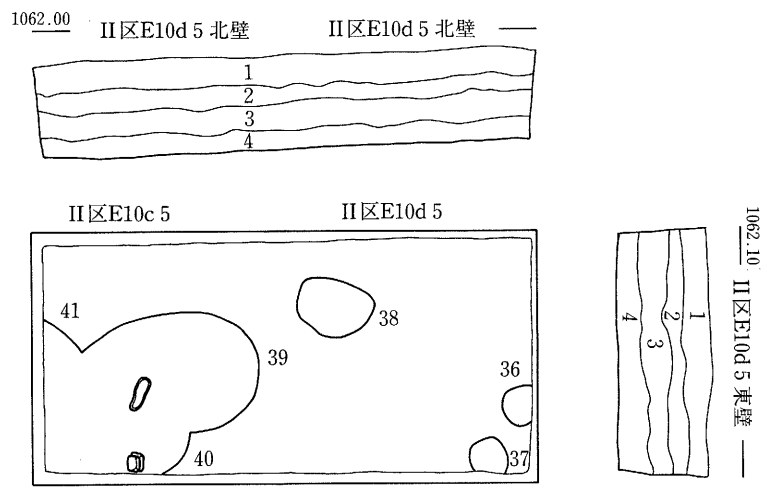
II区D10 d 5・E10 a 5で検出された。長径110cm、短径92cmの楕円形を呈する。遺構49と重複するが、新旧関係は不明である。確認面で礫が出土している。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子、3 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構51（第6図、図版3-5・6）

II区D10 c 4の北東隅で検出された。未掘部分にかかっているため、平面形や規模は明らかでないが、短径33cmほどの楕円形を呈しているものと考えられる。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2 mm以下のロームブロック、1 mm以下のローム粒子を多量に含むほか、3 mm以下の炭化物を少量含む。

遺構52（第6図、図版3-5・6）

II区D10 c 4の北側で検出された。長径60cm、短径45cmの楕円形を呈する。遺構53と接している。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5 mm以下のロームブロック、1 mm以下のロー



第5図 検出された遺構と土層堆積状態(2) (1/60)

ム粒子、5mm以下の炭化物を少量含む。

遺構53（第6図、図版3-5・6）

II区D10c4の北西側で検出された。径28~32cmのほぼ円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。10mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構54（第6図、図版3-5・6）

II区D10c4の北西側で検出された。径38cmのほぼ円形を呈する。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構55（第6図、図版3-5・6）

II区D10b4・D10c4で検出された。径24cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構56（第6図、図版3-5・6）

II区D10b4の南東側で検出された。径15cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構57（第6図、図版3-5・6）

II区D10b4の北東側で検出された。長径42cm、短径30cmの楕円形を呈する。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含むほか、2mm以下の炭化物を多量に含む。

遺構58（第6図、図版3-5・6）

II区D10b4の中央から南側にかけて検出された。立ち木により掘り下げることのできなかった部分にまで遺構が及んでいるため、平面形や規模は不明であるが、径105cmほどの円形ないしは楕円形を呈するものと考えられる。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含むほか、5mm以下の炭化物を多量に含む。

遺構59（第6図、図版3-5・6）

II区D10a4の北側で検出された。長径43cm、短径28cmほどの楕円形を呈する。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構60（第6図、図版3-5・6）

II区D10a4の南西側で検出された。長径35cm、短径28cmほどの楕円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の炭化物を少量含む。

遺構61（第6図、図版3-5・6）

II区C10e4の南西隅で検出された。長径37cm、短径33cmほどの楕円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締っているが、粘性はない。10mm以下のロームブロックを多量に含むほか、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構62 (第6図、図版3-5・6)

II区C10e4の南側で検出された。長径60cm、短径50cmほどの楕円形を呈する。覆土は黒褐色土で、5mm以下のロームブロック、5mm以下の炭化物を多量に含むほか、1mm以下のローム粒子を少量含む。

遺構63 (第6図、図版3-5・6)

II区C10e4の南西側で検出された。遺構64と重複し、長径は不明であるが、短径28cmほどの楕円形を呈するものと考えられる。重複する遺構との新旧関係は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を多量に含むほか、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構64 (第6図、図版3-5・6)

II区C10e4の南壁際で検出された。遺構63と重複する他、多くが未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明である。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、5mm以下の炭化物を少量含む。

遺構65 (第6図、図版3-5・6)

II区C10d4の北側で検出された。径35~37cmのほぼ円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、1mm以下の炭化物を少量含む。

遺構66 (第6図、図版3-5・6)

II区C10c4・C10d4の北壁際で検出された。多くが未掘部分にかかっているため、平面形や規模は不明である。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構67 (第6図、図版3-5・6)

II区C10c4の北側で検出された。径42~50cmの不整楕円形を呈する。複数の遺構が重複しているとも考えられるが、平面での覆土の観察からは分けることはできなかった。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、3mm以下の炭化物を少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構68 (第6図、図版3-5・6)

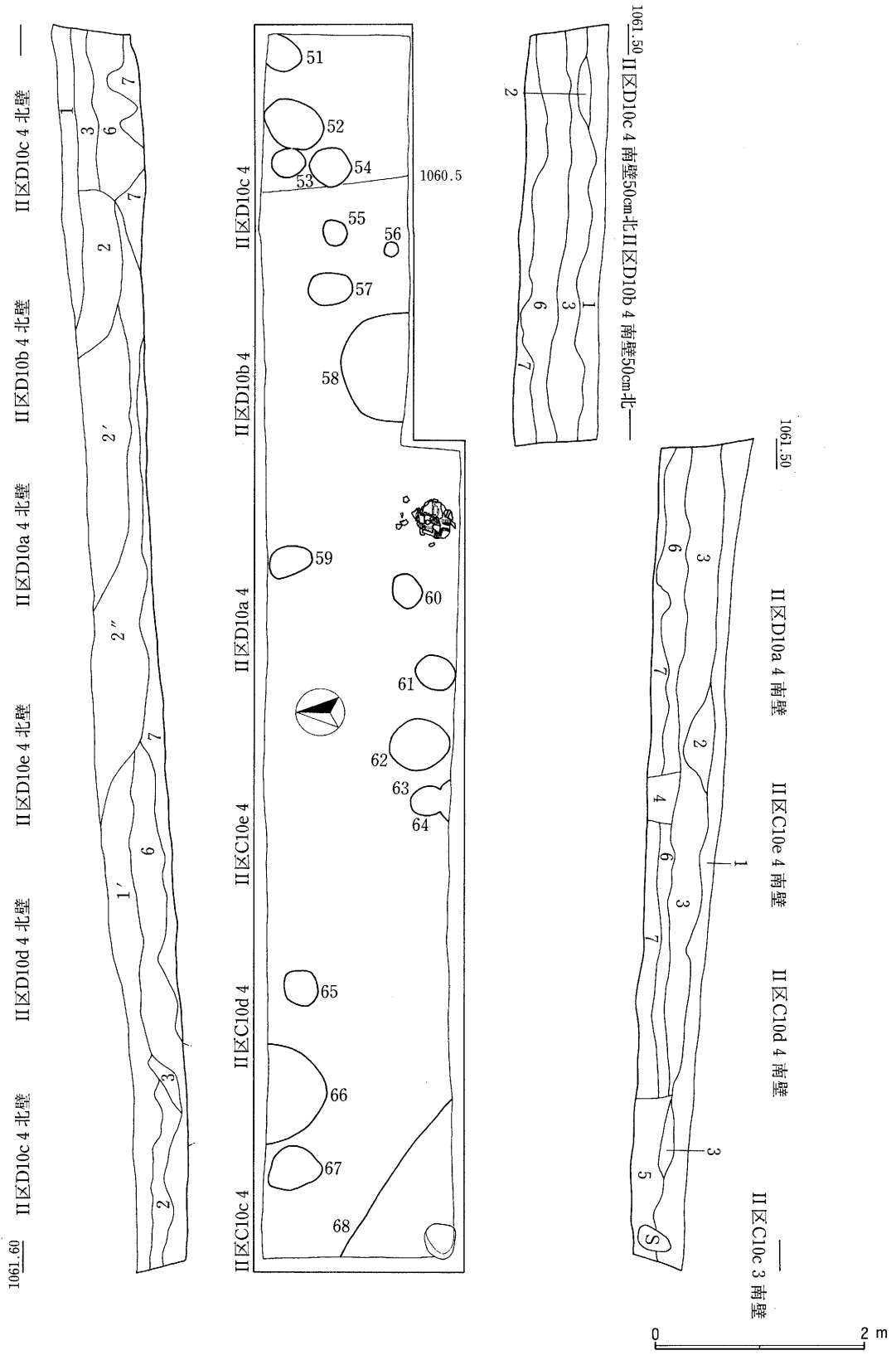
II区C10c4の南西隅で検出された。未掘部分に多くがかかっており、平面形や規模は不明であるが、大きさから住居址になるのではないかと考えられる。確認面で径35cmほどの礫が出土している。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、3mm以下の焼土を少量含むほか、5mm以下の炭化物を多量に含む。

遺構69 (第7図、図版4-3)

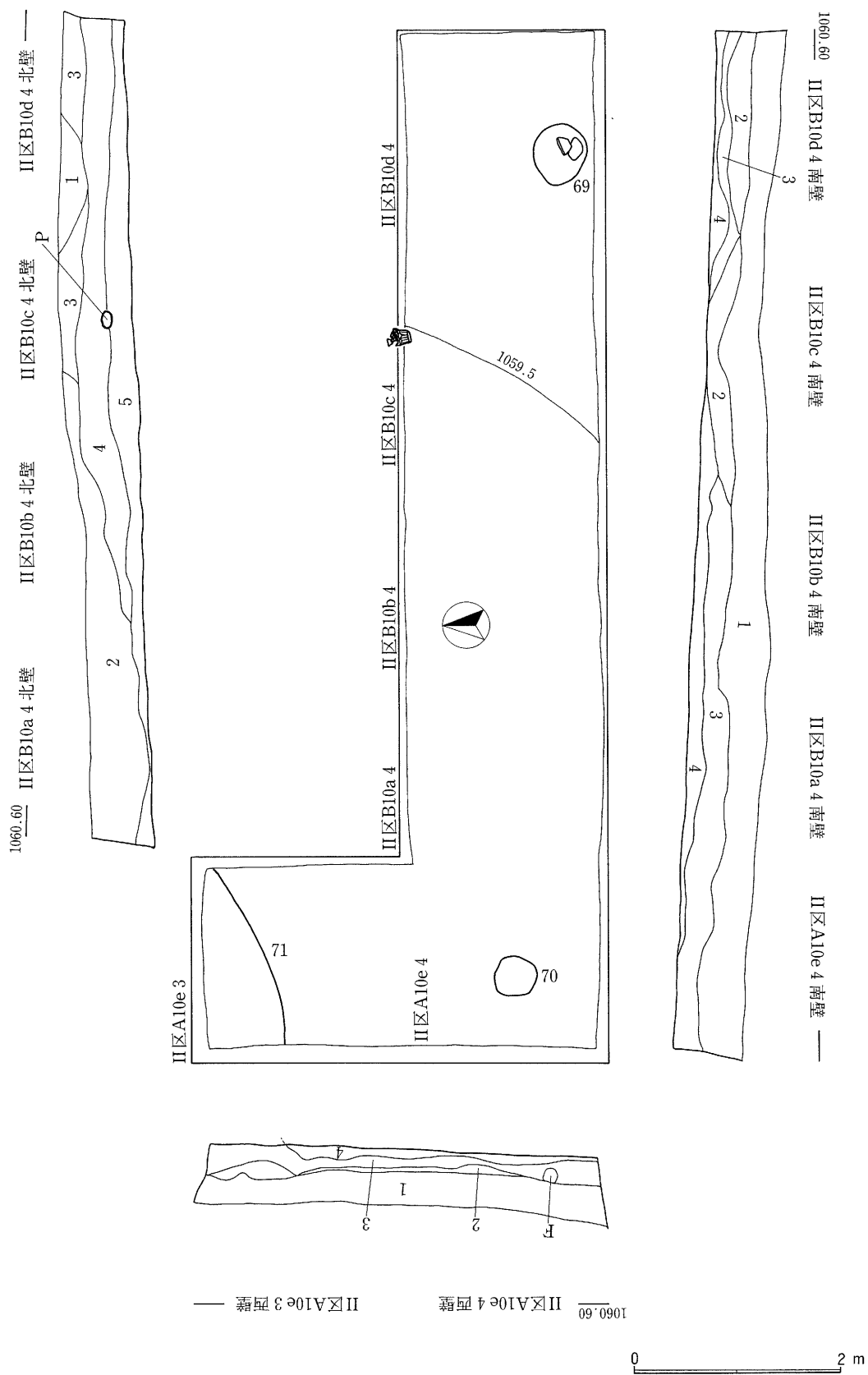
II区B10d4の南側で検出された。長径60cm、短径50cmほどの楕円形を呈する。確認面で礫が2点出土している。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構70 (第7図、図版4-5)

II区A10e4のほぼ中央で検出された。径40cmほどの円形を呈する。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。中央の方が黒味が強い。



第 6 図 検出された遺構と土層堆積状態(3) (1/60)



第7図 検出された遺構と土層堆積状態(4) (1/60)

遺構71（第7図、図版4-6）

II区A10e3の北側で検出された。多くが未掘部分にかかっているものと考えられ、平面形や規模は明らかにできないが、住居址になるのではないかと考えられる。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2mm以下の炭化物を少量含む。

遺構72（第8図、図版4-8）

II区A10a2・3の東壁際で検出された。一部未掘部分にかかっているが、長径65cm、推定短径55cmほどの楕円形を呈するのではないかと考えられる。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、1mm以下の炭化物を少量含む。

遺構73（第9図、図版5-1）

I区L10b2の北壁際で検出された。一部が未掘部分にかかっているが、長径65cm、短径53cmほどの楕円形ないしは隅丸長方形を呈するものと考えられる。プランの周辺の覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子を少量含む。中央の覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子を極僅か含む。

遺構74（第10図、図版5-2）

I区I9d5の南壁際で検出された。遺構の多くが未掘部分にかかっているほか、遺構75と重複しているため、平面形や規模は明確にできない。また重複する遺構との新旧関係も明らかにできなかった。覆土は黒褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。3mm以下のロームブロック、3mm以下の炭化物を少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構75（第10図、図版5-2）

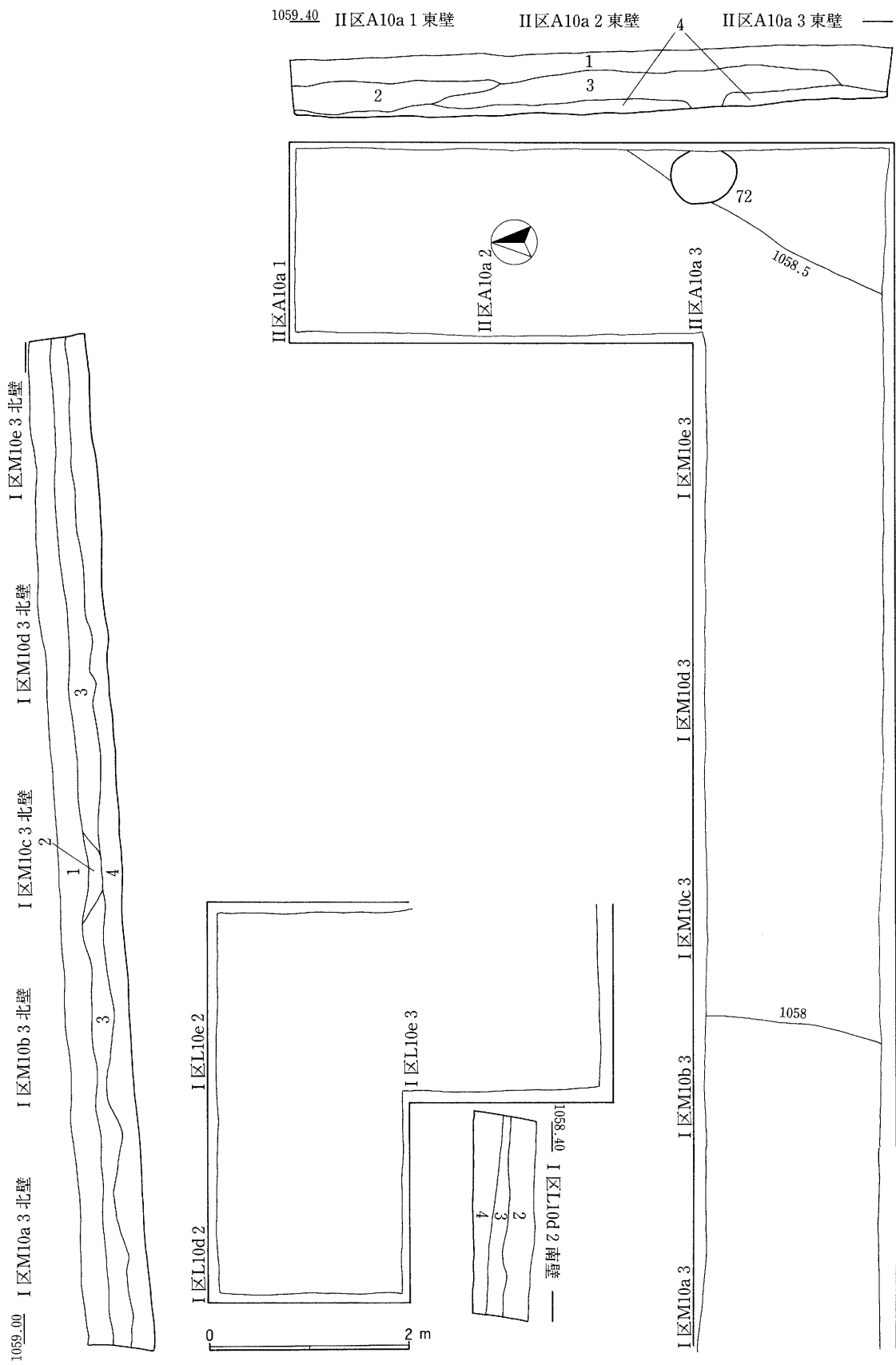
I区I9d5の南壁際で検出された。遺構の多くが未掘部分にかかっているほか、遺構74と重複しているため、平面形や規模は明確にできない。また重複する遺構との新旧関係も明らかにできなかった。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。5mm以下のロームブロックを少量含むほか、1mm以下のローム粒子を多量に含む。

遺構76（第10図、図版5-3）

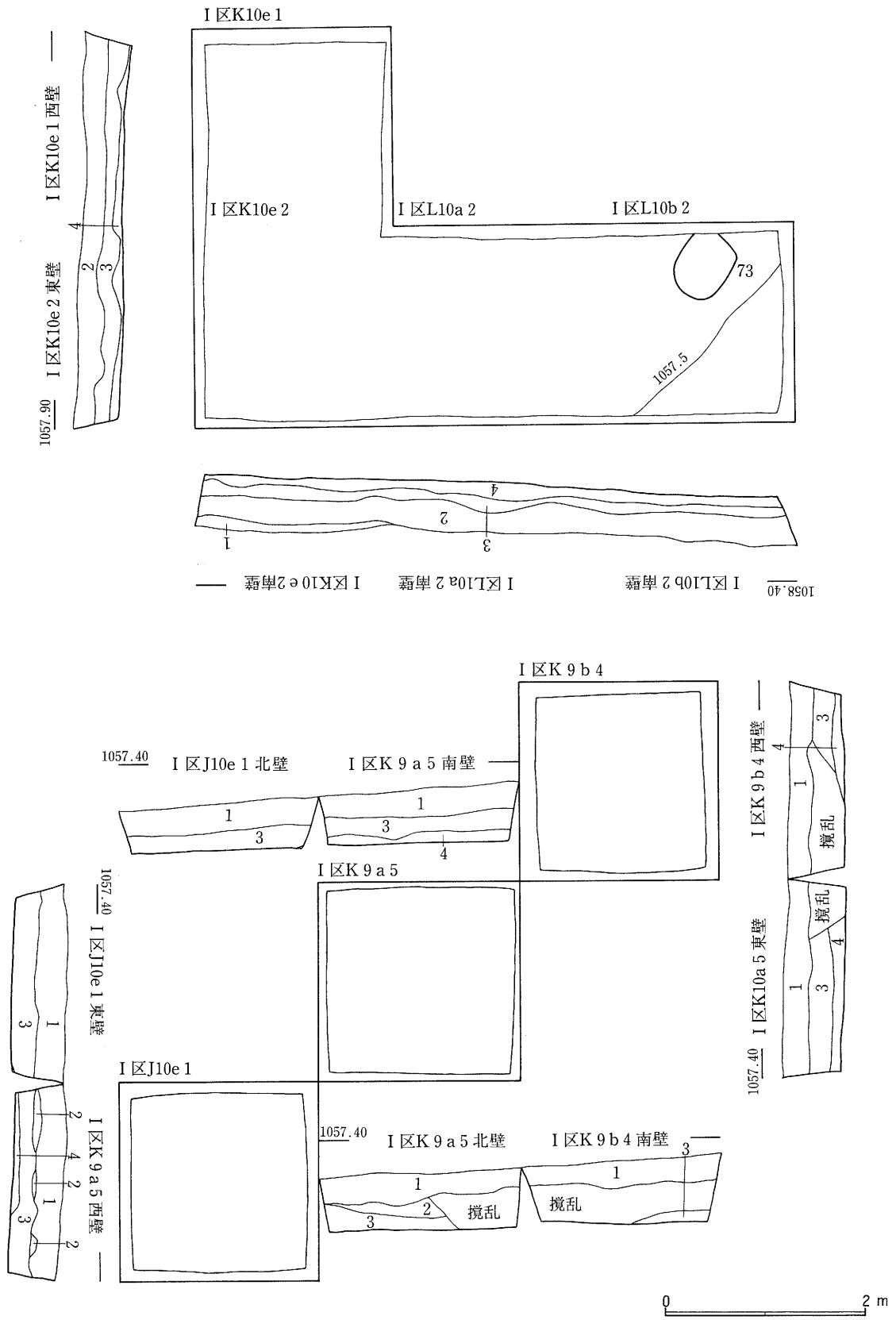
I区H9b4の北西側で検出された。径37cmほどの円形を呈する。覆土は暗褐色土で、粒子は細かく、よく締まっているが、粘性はない。2mm以下のロームブロック、1mm以下の炭化物を少量含むほか、1mm以下のローム粒子を少量含む。

その他

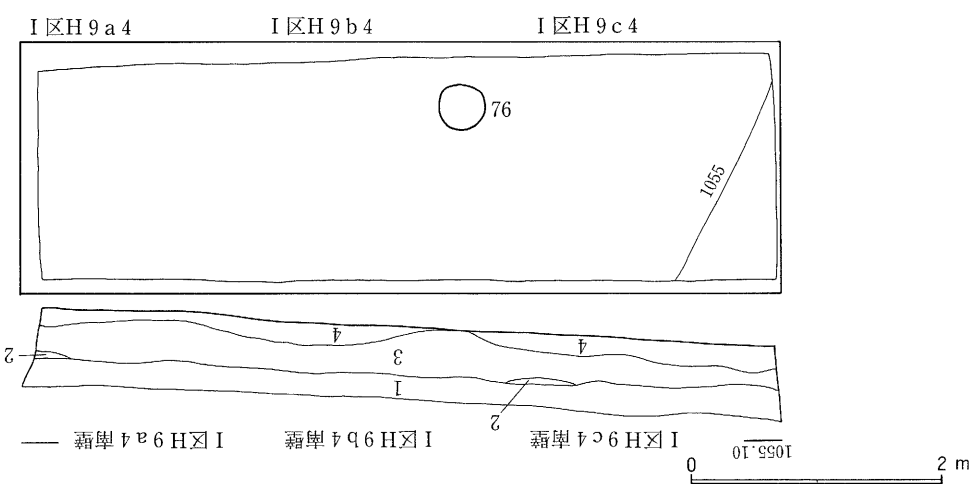
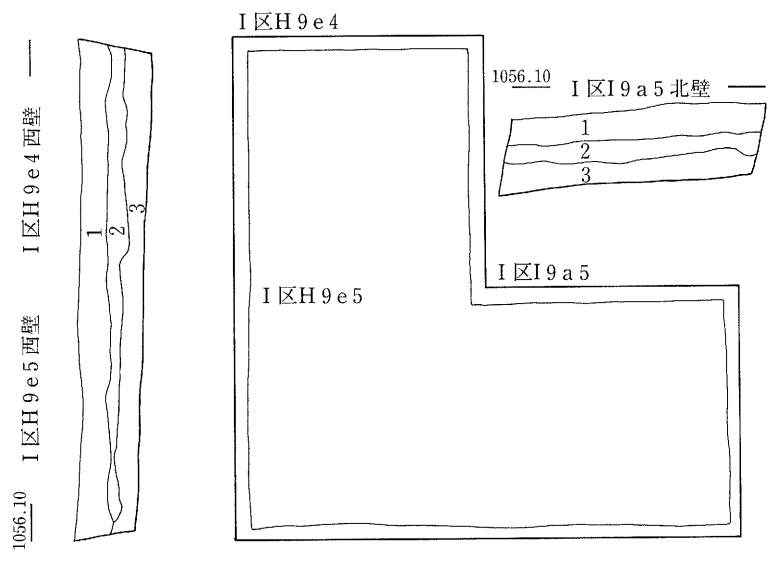
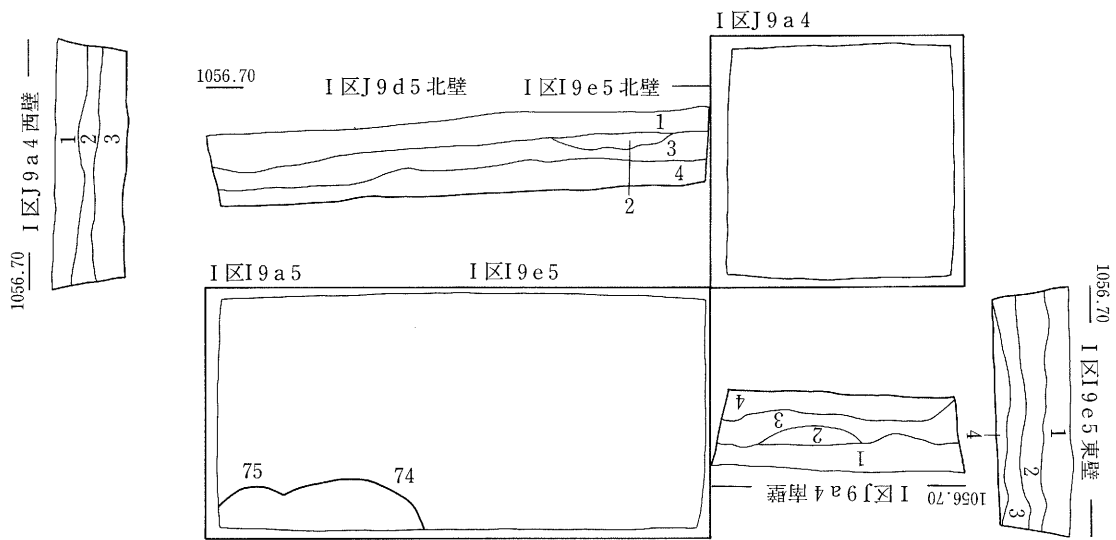
II区G11e2の北側で検出された。当初住居址かと思ったが、以下に述べる覆土の様子などから、溝址ではないかと考えている。覆土は暗褐色土で、5mm以下のロームブロック、1mm以下のローム粒子、2cm以下の礫を多量に含む。



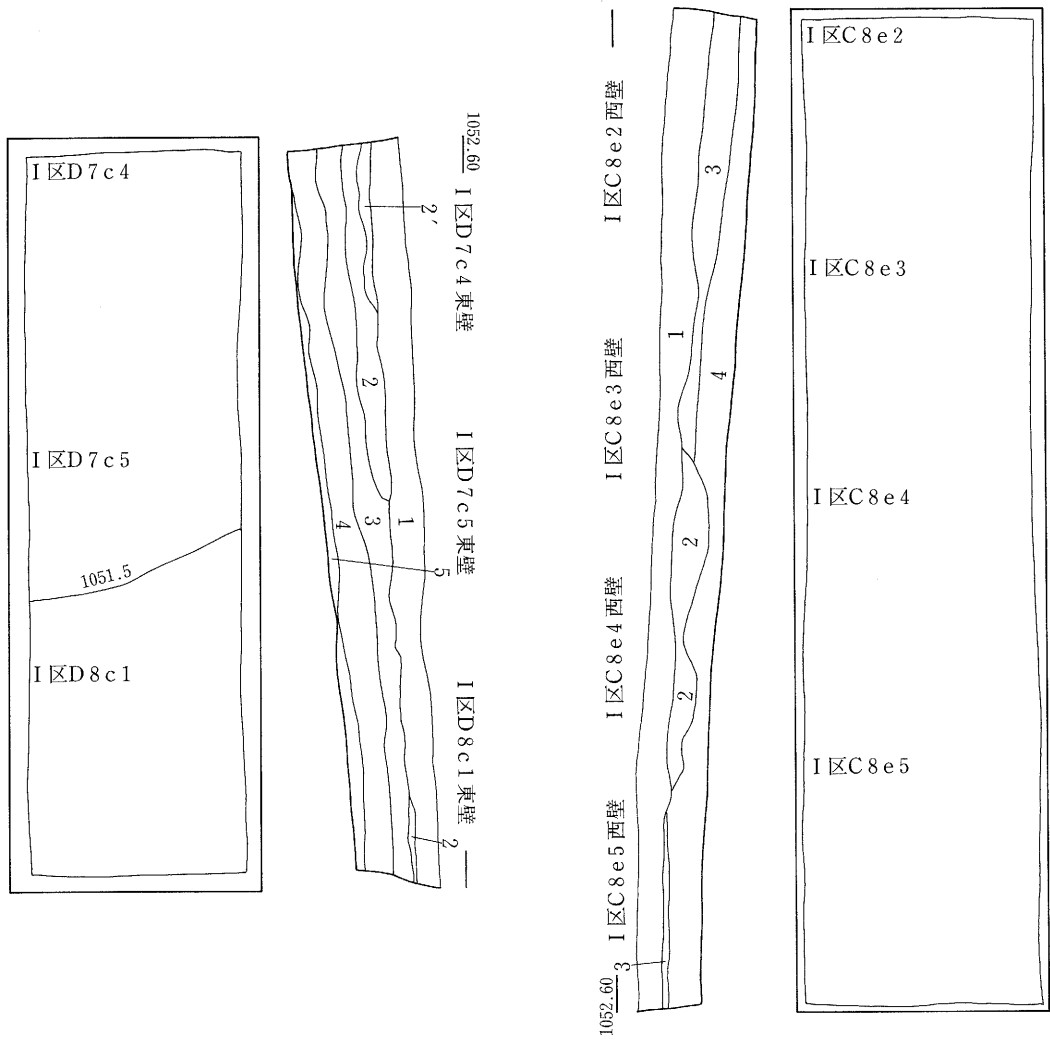
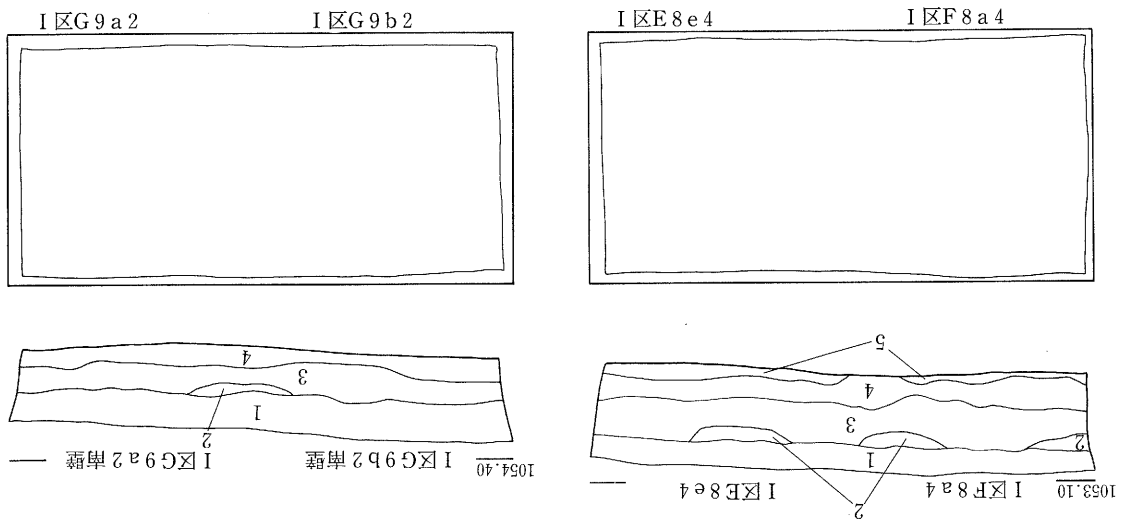
第8図 検出された遺構と土層堆積状態(5) (1/60)



第9図 検出された遺構と土層堆積状態(6) (1/60)

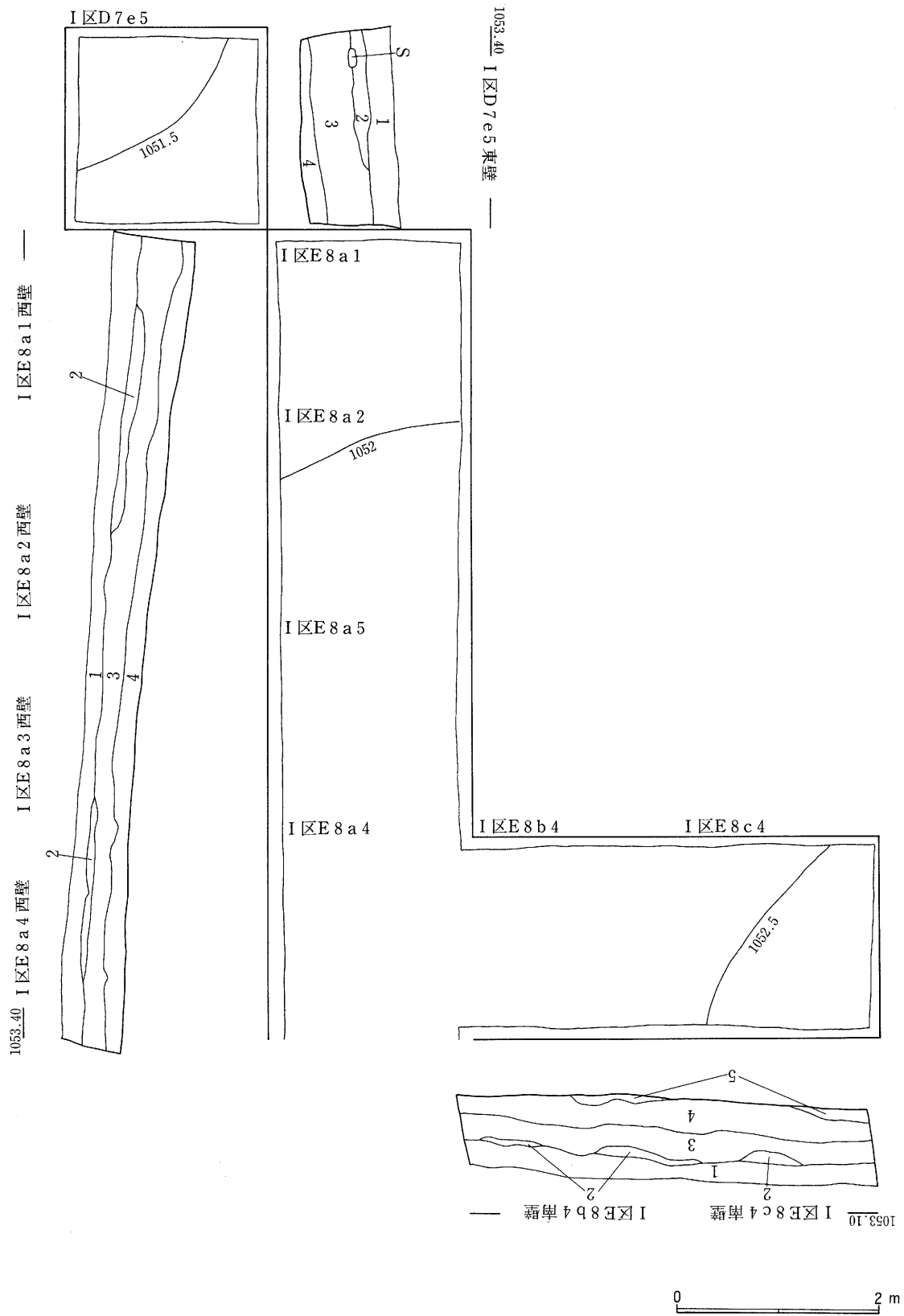


第10図 検出された遺構と土層堆積状態(7)(1/60)



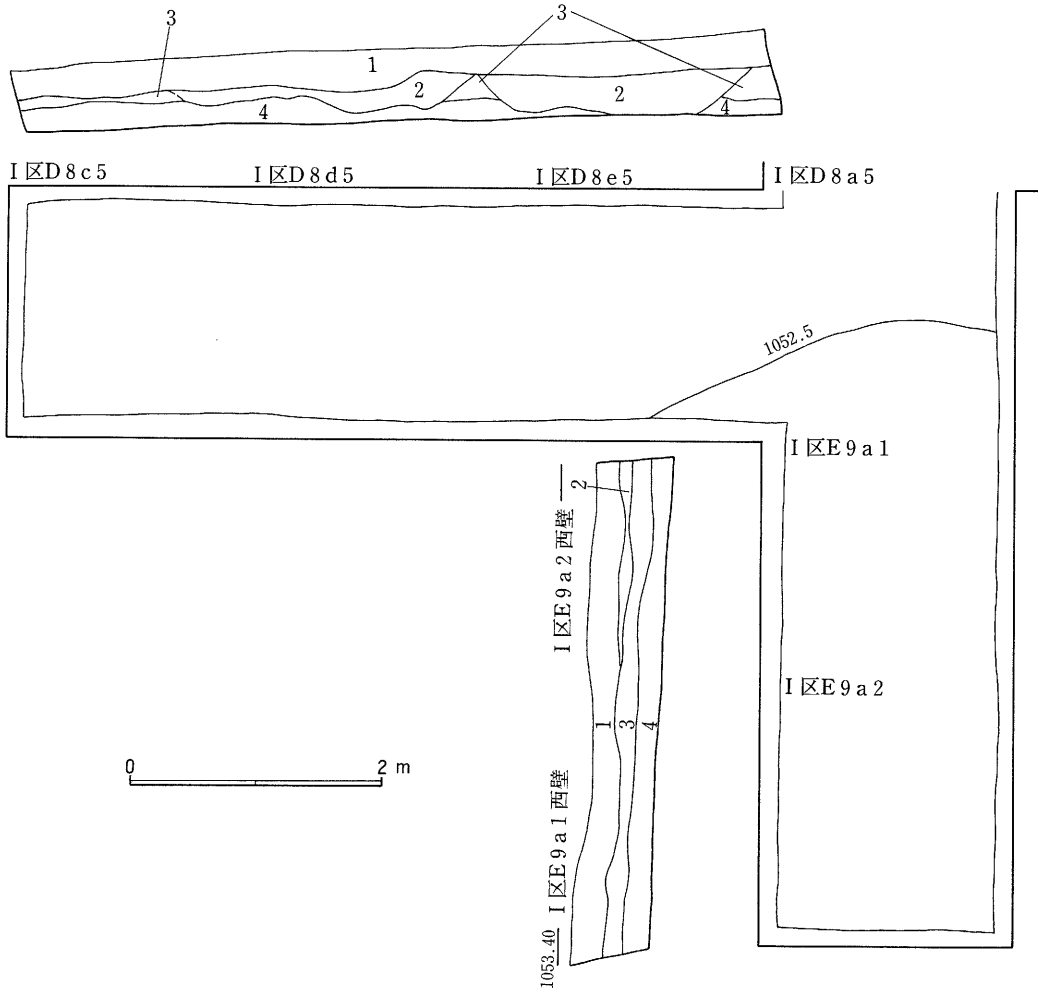
0 2 m

第11図 検出された遺構と土層堆積状態(8) (1/60)



第12図 検出された遺構と土層堆積状態(9) (1/60)

1053.10 I 区D8c5 北壁 I 区D8d5 北壁 I 区D8e5 北壁 —

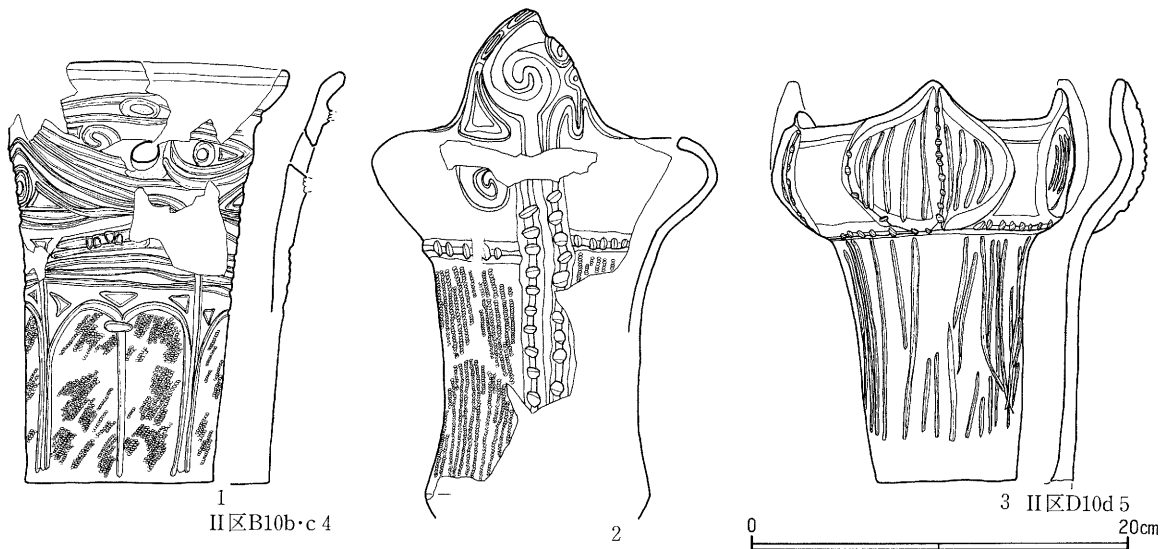


第13図 検出された遺構と土層堆積状態(10) (1/60)

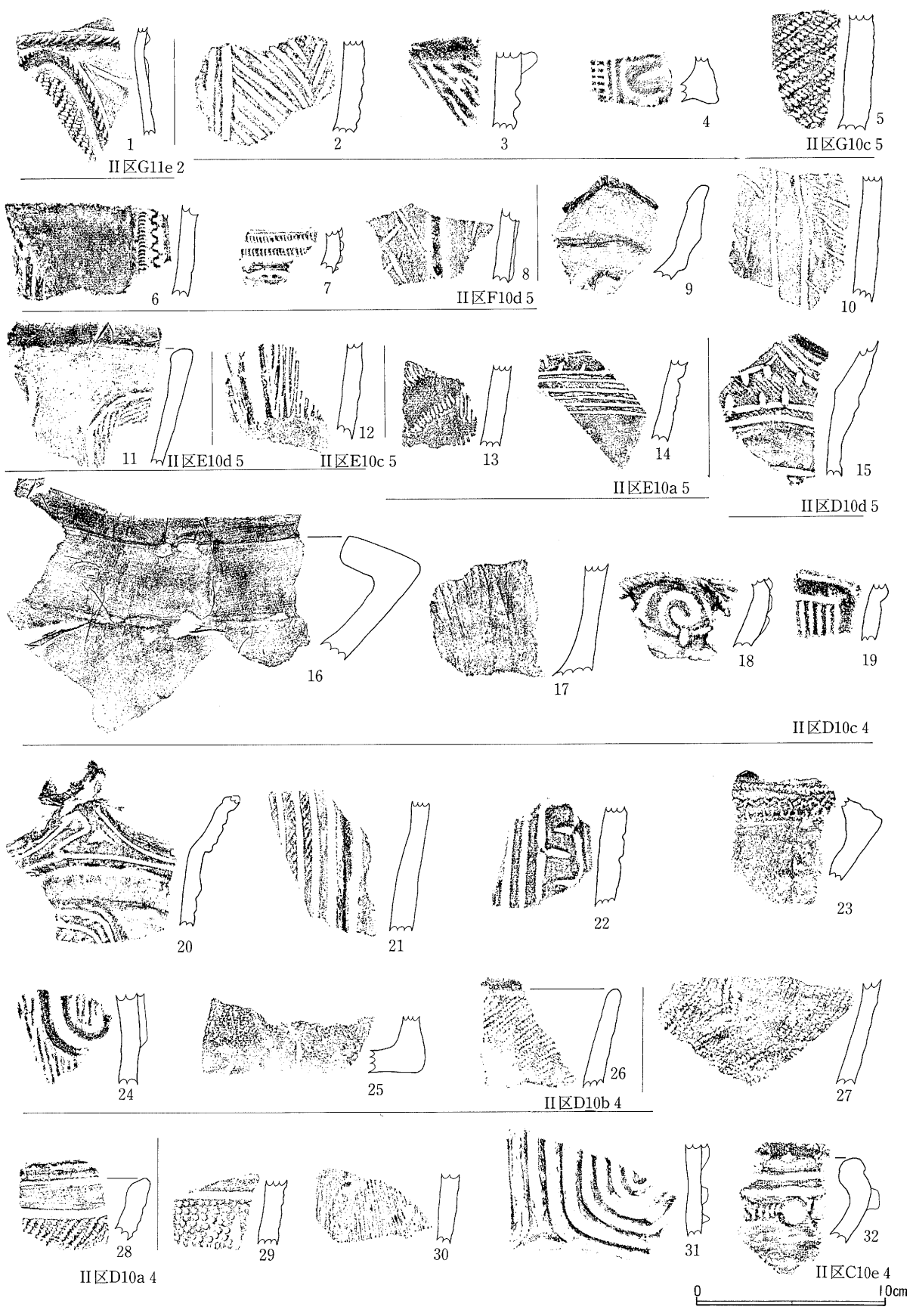
第2節 遺物

今回調査を行った箇所からは、昨年度と比べ、住居址の検出が少なく、土坑やピットの検出が多く見られた箇所である。そんなこともあってか、遺構に伴う一括土器や石器の出土は少なかったが、中期の初頭から後半にかけての土器片（第15～17図）や、同時期と考えられる石器が出土している。特に中期の中葉から後半にかけての遺物の出土が多い。また、遺構からの出土ではないが、復元により器形を窺い知ることのできる土器も幾つか出土している（第14図）。

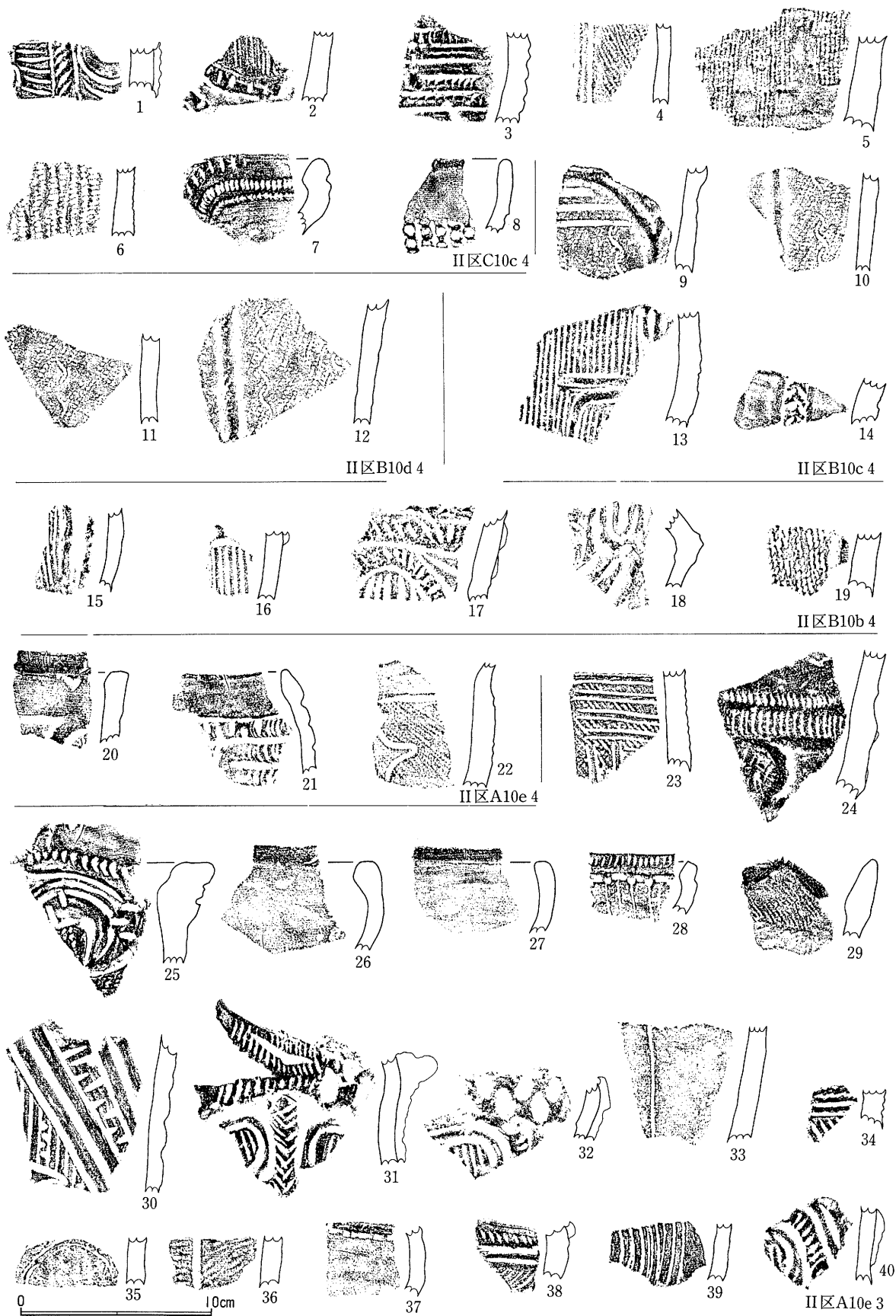
遺物の出土は、遺構の分布の密な東側で多く出土し、遺構の検出が少ない西側ではほとんど出土していない（第1表）。



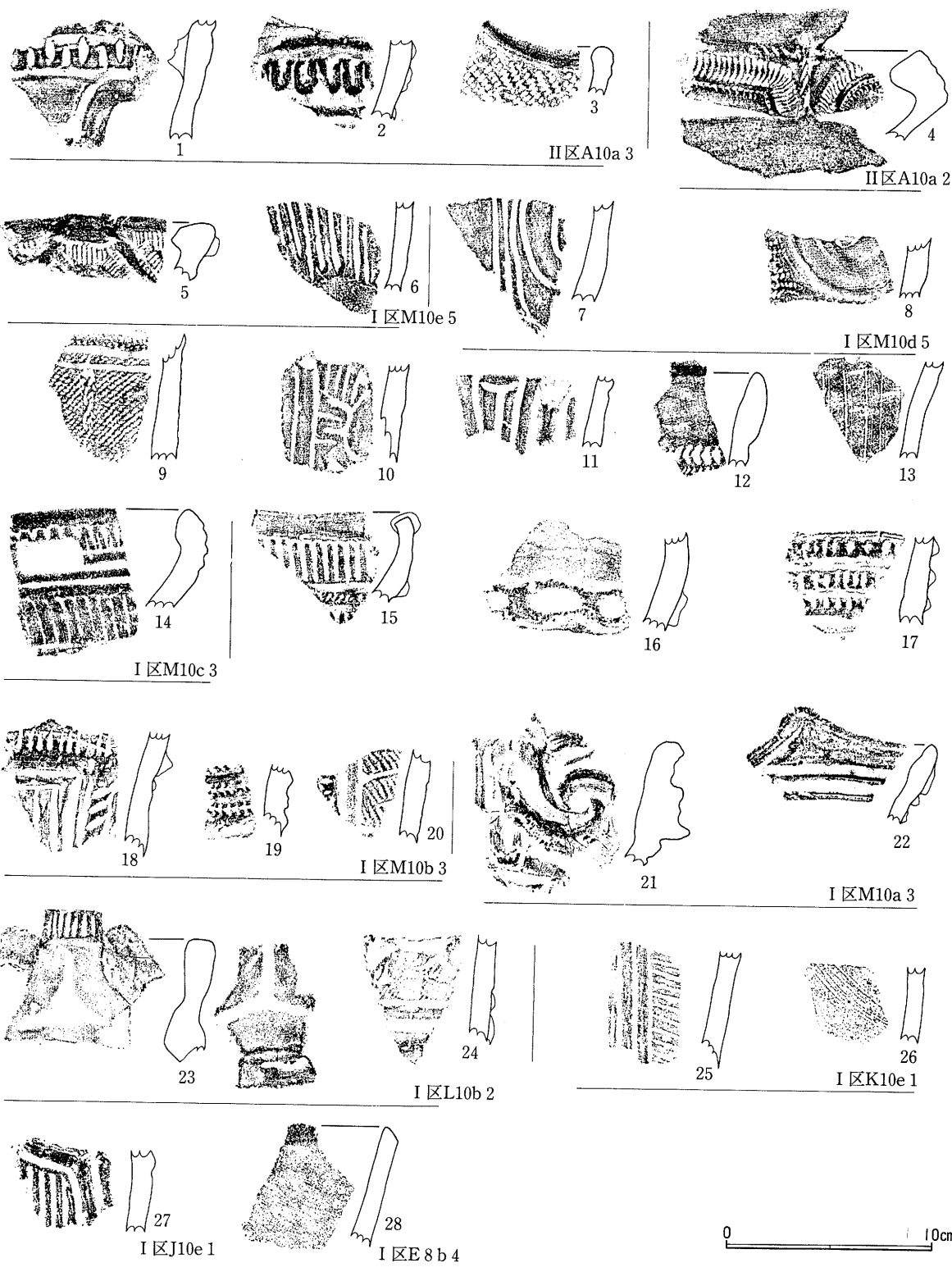
第14図 出土土器(1) (1/4)



第15图 出土土器(2) (1/3)



第16图 出土土器(3) (1/3)



0 10cm

第17图 出土土器(4) (1/3)

第IV章 ま と め

第1節 調査の成果

今回調査した台地中央部の市道甲1号線からその北側にある雑司久保塚までの間は、かつて調査の手の入っていない箇所であるが、その南の甲1号線の道路敷きは、拡幅工事が行われるのに先立って宮坂英弉氏が調査を行い、炉址多数を検出している。しかし調査が古くに行われており、炉址の検出を目的としていたこともあって、時期が明らかになっているものは少ない。

今年度の調査では、今まで遺構が多く検出されている箇所に隣接していることから、やはり多くの住居址が検出され、尖石遺跡の中央部の集落構造とその時期を、かつて調査したものも含め、ある程度推定・把握できるのではないかと考えていた。

しかし、検出した住居址は2軒と、大きく予想を下回った。これは今回の調査箇所が尖石遺跡の中央部にあって、微地形的にはやや頂部から北向き斜面に掛かるところに位置しているためと考えられる。それでも東側はやや頂部に近く、土坑やピットなどが検出されているが、西側に至ると北向きとなる傾斜もさらにきつくなり、遺構の検出や遺物の出土が少なくなってしまう。

住居址の少なさに比して、今回検出された土坑やピットの数には目を見張るものがある。規模や形態から墓壙や貯蔵穴となるような大きな土坑は少なく、性格の不明な柱穴状の小さなピットが多かったが、立木等に阻まれ、性格を把握するための拡張を行わずに終了したことは残念であった。

調査を行うのに先立って、設置してある基準点をもとに調査区を設定するための杭打ちを委託して行ったが、今年度調査する地区は西側が植林によるカラマツ林、東側がクリやナラなどの雑木林となっており、計画した調査区を掘り下げるのは難しかった。そこで、できるだけ立木のあるところは避け、草地となっているところを掘り下げることにしたため、ある箇所については幾つかの調査区を連続して掘り下げ、またある箇所についてはかなりの範囲で調査のできない箇所が生じることとなった。

調査を行うについて、事前に立木等の調査を行い、将来的に伐採することが望ましいものについては、調査前に伐採等の申請を提出しても良かったのではなかったかとの反省も残る。

第2節 今後の課題

尖石遺跡の試掘調査はまだ始まったばかりであり、調査の手の入っていない箇所も多い。

従来遺跡中央の広場と考えられていた地区が、はたして本当に広場であるのか、あるいは試掘調査による推測のように、尖石遺跡を画す浅い谷になるのかといった、遺構の分布以外の微地形を含めた詳細な調査と検討が必要になってくるものと考えられる。

また、史跡整備を行う上で縄文時代の尖石遺跡周辺がどのような環境にあり、どのような植生の中で生活していたのかを考察する必要もある。

そこで、来年度の試掘調査にあたっては、従来遺跡中央の広場と考えられていた箇所と、新たに追加指定となった与助尾根遺跡との間の湿地について調査を行うこととしたい。

第1表 出土遺物一覧表

区	グリッド	土器片	打製石斧	磨製石斧	横刃型石器	石匙	凹石	敲石	黒曜石石鏃	黒曜石剥片
I	D7c4	1								
	E8b4	2						1		
	E8c4	1								
	E9a2						1			
	F8a4	2								
	G9a2	4								
	H9a4	3								
	I9a5	1								
	I9d5	1								
	I9e5	2								
	J10e1	1								
	K9a5	4								
	K10e1	3								
	K10e2	3								
	L10a2			1						
	L10b2	12								
	L10d2	8								
	L10e2	1								
	L10e3	12								
	M10a3	17								1
	M10b3	28		1						2
	M10c3	44				1			1	2
	M10d3	7								
M10d5	24									
M10e3	5								2	
M10e5	18									
II	A10a1	6		1						1
	A10a2	7								
	A10a3	13			1					2
	A10e3	40						1		2
	A10e4	26		1			1	1		1
	B10a4	8								1
	B10b4	16								1
	B10c4	14		1						1
	B10d4	25								
	C10c4	41		4		1				2
	C10c5	1								
	C10d4	16								4
	C10e4	45								6
	D10a4	33								2
	D10b4	15								1
	D10c4	9								
	D10d5	20								
	D10e5	20				1				1
	E9a2	2								
	E10a5	31		1						
	E10c5	9								
	E10d5	16								2
	E11e2	16						1		1
	F10b5	23					1			4
	F10d5	11			1				1	6
	G10b5	5								3
	G10c5	11						1		2
	G11b5	1								
	G11e2	18								
	G11e3	3								
	G11e4	12								2



1 遺跡近景（南から）



2 発掘風景（西から）

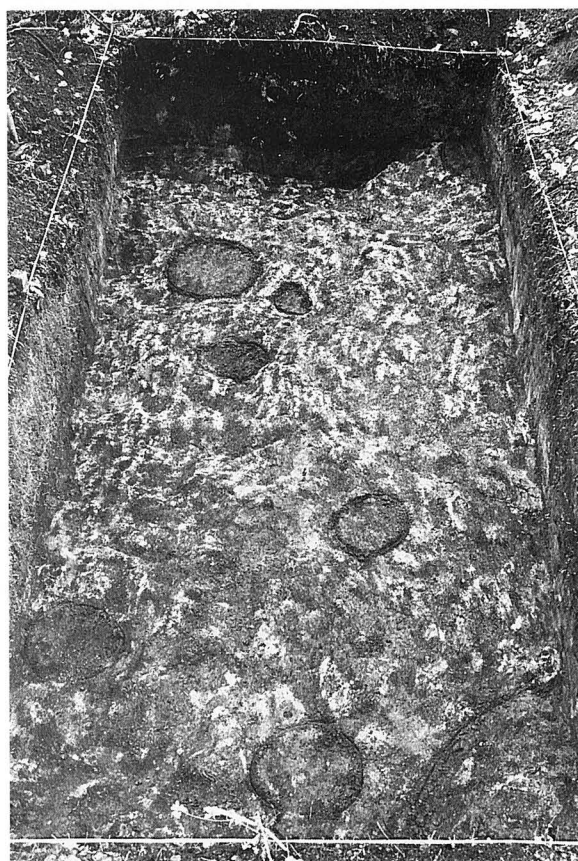
図版 2



1 II区G11e4遺構検出状態（北から）



2 II区G11e2遺構検出状態（西から）



3 II区G10b・c5遺構検出状態（西から）



4 II区F10d5遺構検出状態（西から）



5 II区F10b5遺構検出状態（西から）



6 II区E11e2遺構検出状態（北から）



7 II区E11e2西壁土層堆積状態（東から）



1 II区E10c・d5遺構検出状態（西から）



2 II区D10d・e5, E10a5遺構検出状態（西から）



3 II区D10d5一括土器出土状態（南から）



4 II区D10d4・5一括土器出土状態（西から）



5 II区C10e4, II区D10a・b・c4遺構検出状態（西から）



6 II区C10c4遺構検出状態（西から）

図版 4



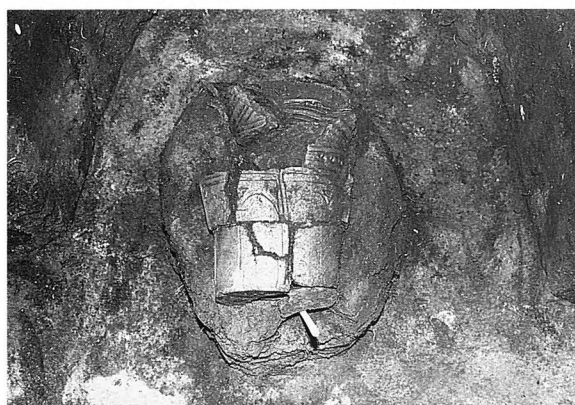
1 II区C10c4遺構検出状態（東から）



2 II区D10a4一括土器出土状態（南から）



3 II区B10d4遺構検出状態（北から）



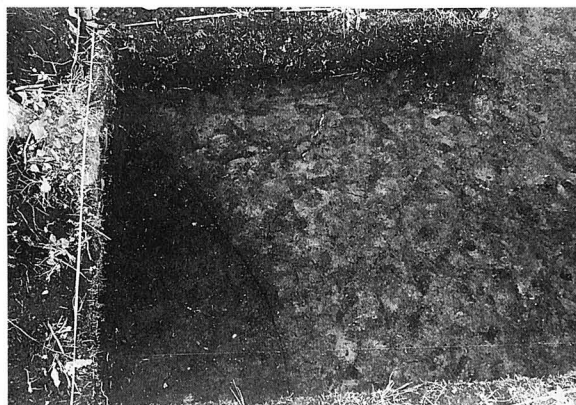
4 II区B10b・c4一括土器出土状態（南から）



5 II区A10e4遺構検出状態（南から）



6 II区A10e3遺構検出状態（南から）



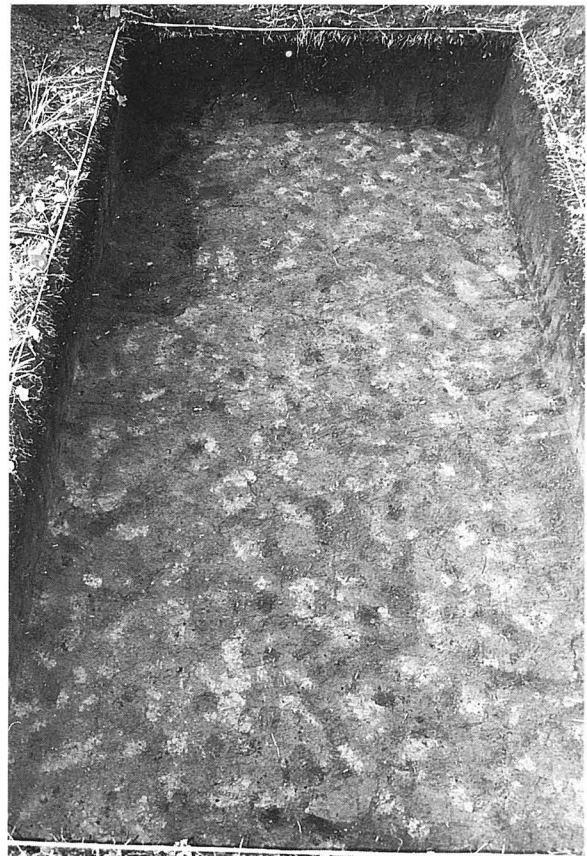
7 II区A10e3遺構検出状態（西から）



8 II区A10a2・3遺構検出状態（南から）



1 I 区K10e1・2, I 区L10a・b2遺構検出状態 (東から)



2 I 区I9d・e5遺構検出状態 (東から)



3 I 区H9a・b・c4遺構検出状態 (東から)



4 I 区E8e4, E9a4南壁土層堆積状態 (北から)



5 I 区E8a1・2西壁土層堆積状態 (東から)

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきとがりいしいせき							
書名	特別史跡尖石遺跡							
副書名	平成6年度記念物保存修理事業（環境整備）に係る試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小林 深志							
編集機関	茅野市教育委員会							
所在地	〒391 茅野市塚原二丁目6番1号 TEL0266-72-2101							
発行年月日	西暦1995年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とがりいし 尖石遺跡	ちのしとよひら 茅野市豊平 ひがしだけ 東獄4,734-2,964 他	202142	87	36° 0' 36"	138° 6' 40"	平成6年 9月1日～ 12月13日	300m ²	記念物保存修 理事業（環境 整備）に係る 試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
尖石遺跡	集落跡	縄文時代 中期	住居址2軒 土坑・ピット74	縄文土器 石器				

特別史跡 **尖石遺跡**

—— 平成6年度記念物保存修理事業
(環境整備)に係る試掘調査報告書 ——

平成7年3月17日 印刷
平成7年3月20日 発行

編集 長野県茅野市塚原2丁目6番地1号
発行 茅野市教育委員会
印刷 ほおずき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5
